

# I

# 序論

---

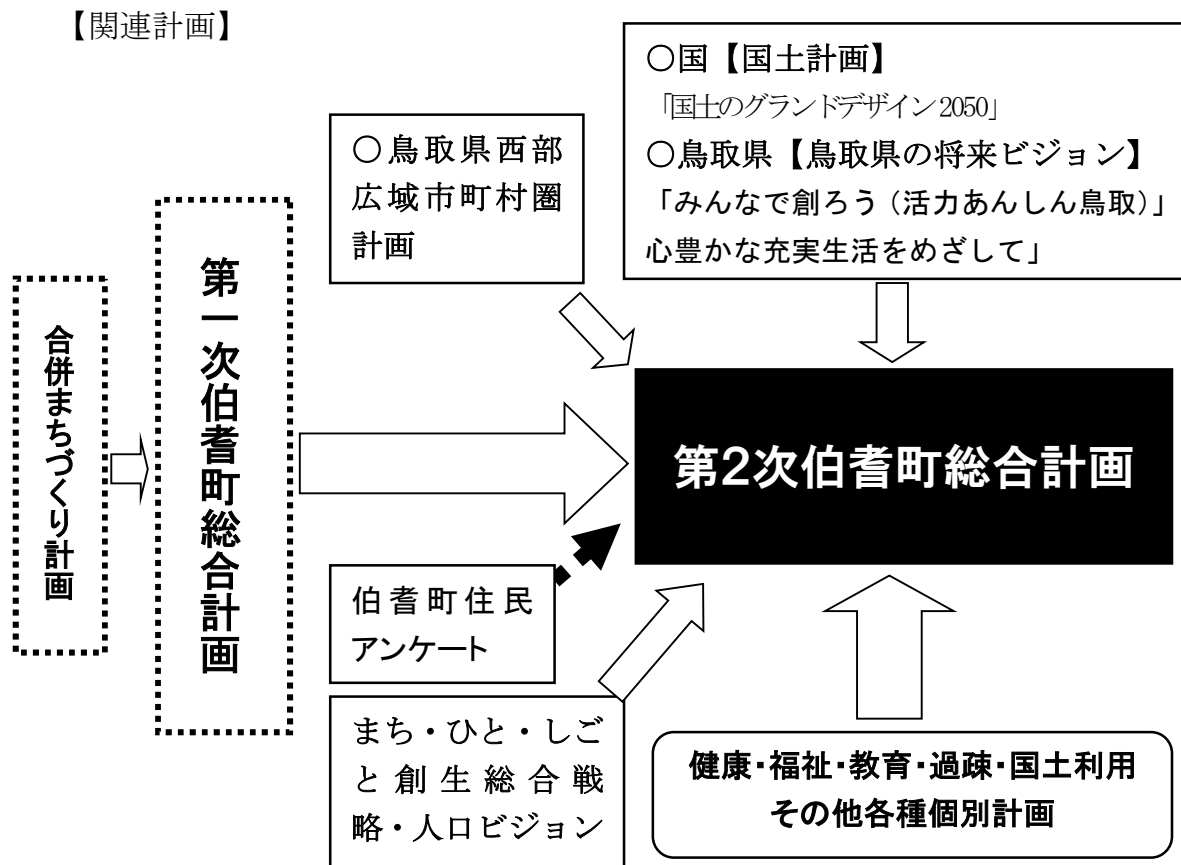
1	計画策定の趣旨	3
2	総合計画の構成と期間	4
3	伯耆町のすがた	5
4	まちの現状と課題	7
5	町民のニーズ	9
6	町の財政指標と地域指定	14

## 1 計画策定の趣旨

伯耆町は、平成 18 年 3 月に策定した第 1 次伯耆町総合計画基本構想に基づき、平成 27 年度まで諸施策を展開し、一定の成果を得てきました。

しかし、長期的な経済の低迷、地球規模での環境問題、人口減少社会における少子・高齢化、高度情報化社会の進展、地方分権の進展など社会経済情勢は日々大きく変化しているとともに、東日本大震災を契機とした防災意識の高まりなど、新たな行政課題が生まれ、早急な対応が求められています。同時に、このような社会情勢のなか、町が将来にわたり発展を続けていくためには、これまで以上に住民と行政が一体となった行政運営が重要になっています。このような状況を踏まえ、伯耆町行政における中心的な役割を担う計画として「第 2 次伯耆町総合計画」を策定します。

なお、平成 27 年度に策定した伯耆町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを踏まえて将来人口の推計を見直すなど住みよい伯耆町を目指して、伯耆町まち・ひと・しごと創生総合戦略等とあわせて関連する各種計画との整合性を図り策定します。



## 2 総合計画の構成と期間

本町は、重点施策と分野別施策の総合的な推進を図り、まちづくりの基本方針に基づく、まちの将来像の実現をめざします。

重点施策は、まちへの愛着の醸成やまちの特性を生かしたまちづくりをすすめるために、重点的、戦略的に取り組む施策として位置づけます。

分野別施策は、住民福祉の向上に向けて、重点施策との連携を図りながら推進する分野別の基本的な施策として位置づけ、10の分野別に整理し、設定します。

また、第2次伯耆町総合計画は「まちの将来像とまちづくりの基本方針」、「基本計画」、「実施計画」で構成します。

### (1) まちの将来像とまちづくりの基本方針

長期的な視点に立ってまちの将来像を明らかにし、その実現に向けた基本指針を示すもので、計画全体の根幹となるものです。

### (2) 基本計画

基本計画はまちの将来像とまちづくりの基本方針を実現するための基本的な方策を示したものです。まちづくりの分野ごとの現況と課題、基本方針及び具体的な方策について明示しています。

### (3) 実施計画

実施計画は短期的な計画で、まちの将来像とまちづくりの基本方針、基本計画に基づいて本町が実施する事業を示します。

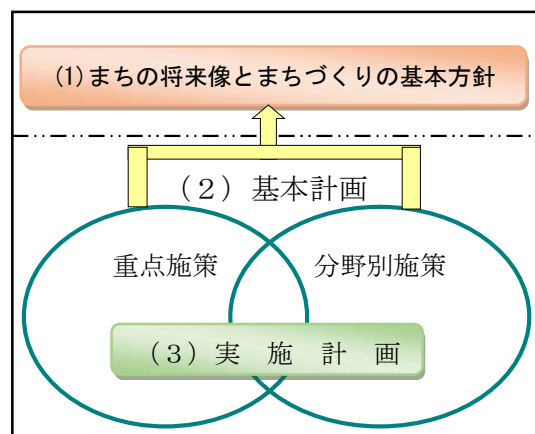
### (4) 計画の期間

第2次伯耆町総合計画は平成28年度を初年度とし、目標年度を32年度(5年間)としています。実施計画は毎年度ローリング(調査)を実施します。

### (5) 進行管理

本計画の実施状況については、毎年度、総合計画審議会で確認するとともに、各事業の進捗状況について、町のホームページなどで公表します。

【計画の構成図】



## 3 伯耆町のすがた

本町は、豊富な自然環境、観光資源、歴史文化という様々な個性を持つ魅力ある町です。さらに今後のまちづくりに活かすべき特性について5つを挙げると以下のとおりです。

### 伯耆町の5つの特性



伯耆町(平成28年4月1日現在)  
 面積 139.44 km<sup>2</sup> 人口 11,098 人  
 人口密度 79.59 人/km<sup>2</sup>  
 世帯数 3,604 世帯 平均世帯人数 3.08 人/世帯  
 (住民基本台帳)

#### (1) 豊かな自然環境に恵まれた町

本町は、中国地方を代表する国立公園大山や鳥取県の三大河川の一つである日野川など、雄大な自然景観に囲まれたうるおいのある環境の中にあります。

この恵まれた自然環境を観光や産業など、さまざまな面で活かすとともに、自然環境の保全や自然と調和した生活環境の創出を図っています。



大山(だいせん)と桜

#### (2) 多彩な観光資源のある町

本町は、国立公園大山に代表される自然環境を活用したゴルフ場やスキー場、また自然を活かした公園や広場、さらには温泉などの観光・リゾート施設が整備され、多彩な観光資源とともに大山を中心とした観光エリアを形成しています。



ふれあい交流ターミナル(スマイルドーム大山望)

### (3) リゾートと生活利便性を共有する町

本町は、大山山麓に展開する自然豊かな別荘地と米子市に隣接する生活利便性の高いベッドタウンという、2つの異なる住みよさが共有する町として発展しています。

また、町内には中国横断自動車道岡山米子線が通過し、溝口インターチェンジ、大山高原スマートインターチェンジ（大山パーキング）が設置されていることから山陽方面や関西方面への交通アクセスの便利な場所に位置しています。



大山と伯耆町

### (4) 農業と観光・交流が連携する町

大山山麓を中心にした農業地帯では、多様な農畜産物が生産され、都市部への供給が行われています。

米のほか白ねぎ、白菜、しいたけ等の特産品の生産や食鶏、乳用牛、肉用牛の飼育などの農業が行われて、さらに特産品開発や観光と地場製品の流通の連携など、農業を観光・交流と連携させることによって新たな発展を図る取り組みがなされています。



大山ガーデンプレイス

### (5) 固有の歴史と文化をもつ町

山陰の自然を舞台に独自の技法で撮影した写真で世界的にも評価の高い写真家植田正治氏の作品を数多く所蔵展示している植田正治写真美術館は町内の重要な文化施設となっています。

また、白鳳時代の大寺廃寺跡から発掘された<sup>せきせいしび</sup>石製鷗尾や小野小町の墓と伝えられる五輪塔、たたら製鉄の歴史を伝える藤屋炉床や日本最古といわれる鬼伝説など、数多くの文化財や史跡が伝えられています。



植田正治写真美術館

## 4 まちの現状と課題

---

### ○少子高齢化への対応

本町の人口は、今後緩やかな減少傾向にあり、高齢化率も徐々に高まることが見込まれています。これらに起因して、町の活力低下を招き、医療や福祉などの社会保障経費の増大、税収減などによる地方財政の悪化、独居高齢者の増加、地域の自治活動や福祉活動、伝統文化の継承への影響など様々な問題が懸念されます。今後、人口減少への対応として子どもを産み育てやすい環境づくりや、地域で支え合う仕組みづくりを地域の特性や課題を踏まえて進めていくことが求められています。

### ○環境や景観の保全

本町は、豊かな自然に恵まれており、まちづくりアンケートの結果でも「自然環境や景観の保全」を求める住民の声は強く、多くの人々に安らぎを与えるかけがえのない自然や景観を守り、後世に財産として残していくことは重要な課題です。そのためには、農村地域の持つ多面的機能を守ることによる景観の保全をはじめ、自然環境の保全とごみの減量化、再資源化といった地球環境に負荷をかけない取り組みを一層進めていくことが求められています。

### ○安全・安心への取り組み

平成 23 年に発生した東日本大震災をはじめ、近年、国内に多くの傷跡を残した自然災害を教訓に対策を強化し、災害に強い安全な地域づくりを進めていく必要があります。

また、高齢者や子どもを巻き込んだ犯罪や交通事故、消費者問題の発生の増加を背景に、住民の不安を解消していくための安全・安心への取り組みが急がれています。

### ○多様化する住民ニーズへの対応

時代の変化、ライフスタイルの個性化などにより、住民ニーズは多様化しています。近年は、便利で快適な都会的生活を好む一方で自然の中での田舎暮らしを好む傾向もあり、本町は、豊富な自然に囲まれた暮らしと、県西部の中心都市に隣接した便利で快適な暮らしのいずれも兼ね備えた住みやすい環境があり、その利点を活かしたまちづくりが求められています。

### ○地方の自立

地方分権改革が進められ、自治体は自らの判断と責任の下に、地域の特性に応じたまちづくりや住民に身近なサービスを提供していくことが求められています。また、本町の財政は、地方交付税に依存した財政構造となっています。このうち普通交付税が、合併算定替による特例措置で段階的に縮減（平成31年度で終了）となるため、更なる経費の削減が必要です。今後とも、自主的な財源確保等財政基盤の強化や効率的な行政運営を実現して財政の健全化を図り、質の高い行政サービスの提供に努めることが求められています。

### ○地域資源の活用と地域産業の活性化

本町には国立公園大山を中心に魅力あふれる観光地や施設が多く整備されていますが、観光地、施設、そして産業間の連携による効果は、まだ充分には発揮されていません。このため、多様な地域資源や地域産業の連携を強め、相乗効果を創出する取り組みが必要です。今後、ますます地域間競争が激化すると予想されており、地域の特色を活かした力強い産業構造の構築が課題となっています。

### ○高度情報社会の進展

情報通信技術の進化と普及により、近年は、生活の利便性、情報通信技術を駆使した新たな産業活動の広がりとともに、人と人とのつながり方など生活面においても大きな変化を与えています。また、一方で、プライバシーの保護、セキュリティの確保等への対策が重要となっています。今後は、自治体経営の更なる効率化のため、安全な情報通信サービスの提供が求められています。

### ○生活利便性の向上

交通基盤の整備にともない、地域住民の生活圏や交流圏はますます拡大する傾向にあります。このような中で、特に山間部の自動車を運転できない高齢者等にとっては、買い物や通院における交通手段の確保が課題となっています。このため、市街地域や医療機関へのアクセスの向上を図るための公共交通の確保・維持といった、生活利便性の向上に向けた取り組みが必要となっています。

## 5 町民のニーズ ～住民まちづくりアンケート結果～

### 【第1次伯耆町総合計画後期基本計画の評価・総括】

後期基本計画（平成23～27年度）の取り組み状況の評価や課題を整理するため、平成27年度に住民まちづくりアンケートを実施しました。

このアンケートは、平成27年7月～8月に、16歳以上の町民1,505人を対象に郵送で実施し、回収総数572枚（回収率38%）で、内容は、後期基本計画の実施施策に対する満足度や重要度を調査したもので、その結果については第2次伯耆町総合計画を策定する上で特に配慮していく必要があると考えています。

### 【アンケート結果】

#### (1) 住環境

「1 自然環境や景観の保全」、「3 ゴみの減量化やリサイクルの推進」は全体の中で満足度と重要度ともに高い数値を示しています。今後も引き続き、自然環境に配慮した生活基盤の整備や自然エネルギーの利用促進等を積極的に進めていく必要があります。

#### (2) 社会基盤整備

「4 上水道・下水道の整備」は全体で一番高い満足度と重要度を示しています。また、「9 インターネットやケーブルテレビなど情報通信環境の整備」、「6 高速道路・国道など広域的な道路網の整備」は全体の中で高い満足度を示しています。これまで、重点的に取り組まれた成果の現れと言えます。

地域公共交通の提供については、住民ニーズに応えるために、運行形態の改善を図りながら事業を実施しています。前回調査と比較して2.02ポイント満足度が上昇しており、一定の成果が現れていますので、引き続き事業を継続していきます。

### まちづくりアンケート（集計表）

[問4] みなさまの暮らしの中で、町の取組事項の各項目についての満足度と重要度

現在の満足度 満足している:10、やや満足:5、どちらとも:0、やや不満:-5、不満:-10とした平均点  
まちづくりの重要度 重要である:10、やや重要:5、どちらとも:0、あまり重要でない:-5、重要でない:-10とした平均点

項目	満足度		重要度		
	平成27年	平成21年	平成27年	平成21年	
住環境	1 自然環境や景観の保全	3.23	1.84	6.88	6.60
	2 環境への負荷を軽減する取組	0.23	-0.77	5.37	5.44
	3 ゴみの減量化やリサイクルなどの推進	3.69	2.94	6.77	6.99
社会基盤整備	4 上水道・下水道の整備	5.71	5.04	7.40	7.69
			4.26		7.40
	5 安全な生活道路網の整備	2.03	2.38	7.24	5.48
			-0.60		6.10
	6 高速道路・国道など広域的な道路網の整備	2.22	2.49	5.17	3.20
	7 地域公共交通（デマンドバス・外出支援サービス）の提供	0.64	-1.38	5.86	6.60
8 暮らしやすい住宅地や住宅の整備・供給	0.68	0.37	5.18	2.99	
9 インターネットやケーブルテレビなど情報通信環境の整備	2.28	2.08	4.84	3.93	



(3) 防災・防犯・交通安全

「10 消防団や集落自主防災組織の体制整備」、「11 消火栓・防火水槽など消防施設の整備」、「12 緊急時の住民への情報提供など通信・連絡体制の整備」は高い満足度と重要度を示しています。一方で、満足度が低く重要度が高い項目として「13 がけ崩れの防止や砂防ダムなど治山治水施設の整備」が特に目立っています。

住民生活上では、安心・安全な社会への要望は強く、引き続き関係機関等と協力して取り組んでいく必要があります。

(4) 産業振興

全体的に満足度が低い結果となっておりますが、前回調査と比較して全11項目のうち、10項目の満足度は上昇していることから、少しずつではありますが、一定の成果が現れつつあると言えます。今後も継続して、地産地消の推進などの体制整備や農商工連携などへの積極的な支援策の実践が期待されていると考えられます。

また、アンケート (P. 11 グラフ) により「(イ) 人口減少を克服し、活力ある社会を目指して伯耆町が取り組むべき重視すべきことについて、最も重視すべきこと」として、「産業活性化、安定雇用」が2番目に多かったことにより、既存企業に対する支援を継続的に行うとともに、新規の企業誘致については、町内はもとより、周辺市町村と連携して雇用の場の創出を図っていく必要があります。

項目		満足度		重要度		
		平成27年	平成21年	平成27年	平成21年	
防災・防犯・交通安全	10	消防団や集落自主防災組織の体制整備	2.38	2.77	5.79	5.52
	11	消火栓・防火水槽など消防施設の整備	3.24	2.90	6.72	5.98
	12	緊急時の住民への情報提供など通信・連絡体制の整備	2.14	1.97	7.26	6.78
	13	がけ崩れの防止や砂防ダムなど治山治水施設の整備	0.50	0.00	6.57	5.69
	14	防犯・交通安全のための啓発活動や施設の整備	1.19	0.24	5.75	5.44
	15	消費生活に関する啓発や相談体制の整備	0.43	0.11	3.57	4.51
産業振興	16	農林業の基盤(農林道・水路)整備	0.56	-1.45	4.72	4.82
	17	農林業の担い手・後継者の育成支援	-1.94		5.60	
	18	地産地消推進や食の安全確保の取組	0.75	-0.16	5.50	5.41
	19	農業と観光を連携させた交流型事業への取組	-0.68	-0.80	4.04	2.60
	20	農地の荒廃防止のための取組	-2.39	-3.12	5.37	5.07
	21	新規事業・起業化への支援	-1.27	-1.13	4.44	3.19
	22	地域の買物環境を守る取組	0.29	-1.99	5.49	2.77
	23	観光拠点整備と広域連携による観光振興	-0.02	-0.81	4.48	3.31
	24	企業誘致活動、既存企業に対する支援による雇用の場の創出	-1.58	-0.63 -3.08	5.79	2.89 5.33
	25	特産品開発、ブランド化、販路開拓のための支援	-0.66	-1.26 -1.03	4.53	3.76 4.20
26	観光ボランティアなど観光客受入体制やホームページ、パンフレットなど観光情報の提供体制の整備	-0.49	-1.18	4.27	3.04	

(5) 学校教育

「28 地域の個性を活かし、学校・家庭・地域が連携した学習活動の推進」の満足度は低いものの、重要度では比較的高い数値を示していることから、学校・家庭・地域が連携した取り組みの強化が期待されていると考えられます。

(6) 生涯学習

生涯学習の拠点としての「30 公民館・図書館の有効活用」が全体の中で高い満足度を示しています。

その他の項目についても前回調査より満足度と重要度は上がっており、引き続き生涯学習への取り組みが求められています。

(7) 人権

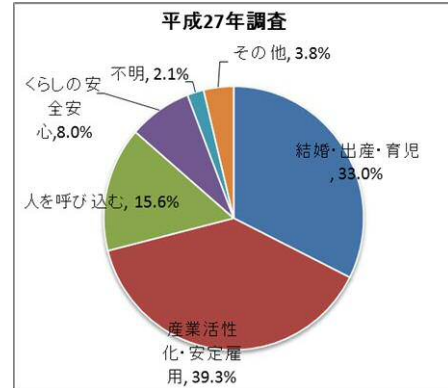
質問項目全部において「どちらともいえない」との回答が一番多くありました。満足度と重要度はともに低い値ですが、人権に対する啓発活動の継続が望まれます。

(エ) 将来も伯耆町に住み続けたいと思われた主な理由[3つまで選択]

◎上位3位までの理由

1	自然環境・景観が良い	64.6
2	生まれ育ったまちだから	44.8
3	人間関係や近所づきあいが良い	25.9

(イ) 人口減少を克服し、活力ある社会を目指して伯耆町が取り組むべきことについて、最も重視すべきことは何だと思えますか [1つ選択]



項目	満足度		重要度		
	平成27年	平成21年	平成27年	平成21年	
学校教育	27 少人数学級設置、英語指導助手配置などによる学力の向上	1.09	0.49	5.61	5.14
	28 地域の個性を活かし、学校・家庭・地域が連携した学習活動の推進	0.92	0.65	5.32	4.06
	29 スクールソーシャルワーカー・学習支援員の配置による支援が必要な児童・生徒の教育体制の充実	0.69	-	5.31	-
生涯学習	30 公民館・図書館の有効活用	2.41	0.41	4.90	3.11
	31 地域の歴史・芸術・伝統・文化を守り、継承するための取組、支援体制の整備や文化施設の有効活用	0.68	0.13	4.22	3.84
	32 スポーツ活動の支援やスポーツ施設の有効活用	1.31	0.82	4.58	3.57
	33 青少年の健全育成	0.78	-	5.83	-
人権	34 男女それぞれの能力が発揮できる社会をつくるための男女共同参画推進	0.21	0.00	4.60	3.09
	35 人権教育・啓発の推進や人権を守るための取組	1.05	0.58	4.31	2.85

(8) 福祉

総じて満足度は前回調査より向上していますが、低い値を示しています。重要度は、全項目、全年代において非常に高い数値を示していることから、今後、さらに福祉施策の充実が期待されています。

(9) 子育て支援

「42 妊産婦や乳幼児への健診の充実」が、全体の中で高い満足度を示しているほか、全項目について満足度が前回調査より上がっており、合併後の新町において、重点的に取り組まれた成果の現れだと言えます。また、重要度についても全体の中で高い数値が示されており、引き続き、妊産婦・乳幼児健診や保育サービスを中心とした子育て支援の充実を図っていく必要があります。

(10) 健康・医療

「44 健康診査、健康相談、健康教育など健康対策事業の推進」が全体の中で高い満足度と重要度を示しています。引き続き、健康対策事業の推進・医療体制の充実を図っていきます。

(11) 住民参画・地域づくり

地域活動に関する質問項目では、満足度は低い傾向にあり、今後、協働のまちづくりの取り組みについて充実・強化を図っていく必要があります。

また、「48 空き家対策の推進」と「51 伯耆町への移住・定住を促進するための取組」については「伯耆町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても重点施策として位置づけられており、今後重点的に取り組んでいくこととします。

項目		満足度		重要度	
		平成27年	平成21年	平成27年	平成21年
福祉	36 福祉に関する相談窓口・情報提供・ボランティア活動・地域福祉活動への支援、体制整備	1.24	0.62	5.57	5.72
			0.63		4.19
	37 バリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	0.24	-0.17	4.67	5.12
福祉	38 高齢者への介護予防・生きがい対策・地域における支え合いなど各種福祉サービスなどの充実	1.13	0.74	6.33	6.07
	39 障害者への社会参加促進・地域での生活支援・各種福祉サービスなどの充実	0.77	0.45	5.89	5.66
	子育て支援	40 子育てなどに関する相談窓口や情報交換・提供などの体制整備	0.76	0.71	5.89
41 放課後児童クラブや放課後子ども教室などニーズに合わせたサービスの充実		0.98	0.70	6.05	5.33
42 妊産婦や乳幼児への健診の充実		2.10	1.17	6.38	5.86
健康・医療	43 保育所、病児・病後保育など保育サービスの充実	0.91	-	6.78	-
	44 健康診査、健康相談、健康教育など健康対策事業の推進	3.34	2.18	6.85	6.37
	45 住民と行政の協働による地域で保健福祉を支える仕組みづくり	1.55	0.20	5.43	4.92
住民参画・地域づくり	46 積極的な情報公開や住民参画の仕組みづくり	0.39	0.39	4.61	3.65
	47 地域のリーダー育成や住民、集落、団体などによる自主的活動の支援	0.28	-0.02	4.14	2.75
	48 空き家対策の推進	-2.11	-	4.91	-
	49 地域の活動拠点の整備	-0.24	-0.01	4.31	2.70
住民参画・地域づくり	50 町内外の地域と地域(人と人)の交流を促すための活動の推進	-0.22	0.09	3.70	2.93
	51 伯耆町への移住・定住を促進するための取組	-1.04	-1.52	6.23	4.29

青数字: 上位10項目 | 平成21年と比較して数値が上がったもの | 数字がマイナスのもの  
赤数字: 下位10項目 | 平成21年と比較して数値が下がったもの | 数字がマイナスのもの

## 【評価・総括】

このアンケートを通じて、基本構想において目指している「まちの将来像」を達成するための住民ニーズの把握とその実現に向けた施策の方向性が、ある程度明らかになりました。

住民ニーズ（重要度）が最も高い割合を示した分野は「住環境」で、次いで「子育て支援」「健康・医療」「社会基盤整備」「防災・防犯・交通安全」「福祉」と続きます。

また、満足度が最も高い割合を示した分野は「健康・医療」で、次いで「住環境」「社会基盤整備」「防災・防犯・交通安全」「生涯学習」「子育て支援」と続きます。

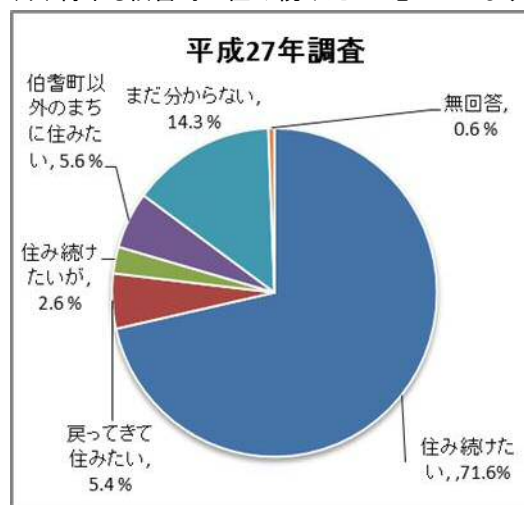
このように、重要度が高い分野は比較的満足度も高い割合を示しており、これらの分野の取り組みは、具体的に実現している事業が多くあり、現状の取り組みの継続が望まれていると分析できます。

また、重要度が比較的に高く、満足度が低い割合を示した分野が「産業振興」「住民参画・地域づくり」であり、農林業の基盤整備・担い手や後継者の育成支援、農地の荒廃防止のための取り組み、雇用の場の創出、地域活動拠点の整備、移住定住を促進するための取り組みなどを、今後改善して取り組んでいく必要があります。

伯耆町は、自然に恵まれた町で、多くの住民の方が町に愛着を感じ、住みよい町であり、将来も伯耆町に住み続けたいと思われていることが、このアンケート結果により明らかになりました。

このことは、行政として合併以前からそれぞれの町で、住民の方のご協力を得ながら懸命に努力し、取り組んできた成果の現れであると思いますが、一方では、さらなる施策の充実・改善があることも明らかになりました。

(ウ) 将来も伯耆町に住み続けたいと思っていますか



## 6 町の財政指標と地域指定

### (1) 財政指数

(単位：%)

経常収支比率				健全化判断比率 (H27 年度決算)	
H24	H25	H26	H27	実質公債費比率	将来負担比率
87.4	86.9	89.9	88.2	9.8	—

※「—」は当該比率が生じていない（黒字である、将来負担がゼロ以下である）ことを表しています。

- ・経常収支比率は、80%を超えると弾力性を失いつつあるといわれていますが、85%を超えており高い水準にあります。
- ・実質公債費比率は、借入金(地方債)の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すものです。
- ・将来負担比率は、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すものです。

### (2) 地域指定

中国山地に位置し、以下の農山村に係る地域指定を受けています。

#### ○過疎地域 (旧溝口町)

…過疎地域自立促進特別措置法（過疎法）に基づき指定された市町村

#### ○農村地区工業導入地区 (旧溝口町)

…農村地域工業等導入促進法に基づき指定された区域を有する市町村

#### ○振興山村 (旧溝口町)

…山村振興法に基づき指定された地域を直轄する市町村

#### ○辺地 (旧溝口町)

…辺地における公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置法に関する法律に基づく辺地を有する市町村

#### ○特定農山村地域 (旧溝口町)

…特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律に基づく公示された地域の市町村

#### ○地方拠点都市地域

…地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律に基づき、地方拠点都市地域に指定された市町村

